

昭和55年付添看護調査〔施設調査〕

表11 付添のついた患者の年齢

年 齢	0歳	1～6歳	7～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
基準看護承認の有無											
基準看護病院	4.1%	12.5	4.1	1.0	3.0	4.1	7.1	13.5	19.6	31.0	100.0
普通看護病院	2.0	5.9	2.0	1.5	3.5	4.0	6.9	12.4	19.3	42.5	100.0

付添がついていることになる。

そして付添のつく患者数は年齢が下がるにつれて減少する。ただし「0歳」「1～6歳」は付添う率が高い。同様に試算すると、「0歳」の入院

患者に付添のつく率は実に41.0%にも上った。これは乳児のため母親と（が）離れがたい、または次に述べる病院側の要請によるためだろう。

### III 病院の態勢

これ以降はすべて付添のいる病院の実情である。

#### 1 付添をおく病院側の理由

〈図2〉のように基準看護病院、普通看護病院とも「重症だから」「術後だから」が圧倒的に多い。次いで基準看護病院では「子どもだから」「患者が不安がっているから」が多く、患者の精神的慰安のために付添を許す面があることを物語っている。また、「患者が自分で日常生活行動できないから」も基準看護病院で半数近くあり、看護力の代替として付添をつけていることも分かる。

これに対して普通看護病院では「患者が自分で日常生活行動ができないから」付添をつけるという病院が2番目に多かった。

#### 2 付添うことを言い出す人

基準看護病院全体では「患者・家族」から申し出ることが多い病院が約2/3を占める。一方普通看護病院では「医師」と「病棟婦長」とがそれぞれ3割近くずつあり、「一般看護婦」や「総婦長」も合わせた割合は69.1%にも上る。このように普通看護病院では病院側から付添を要請するのが多いことがわかる〈表12〉。

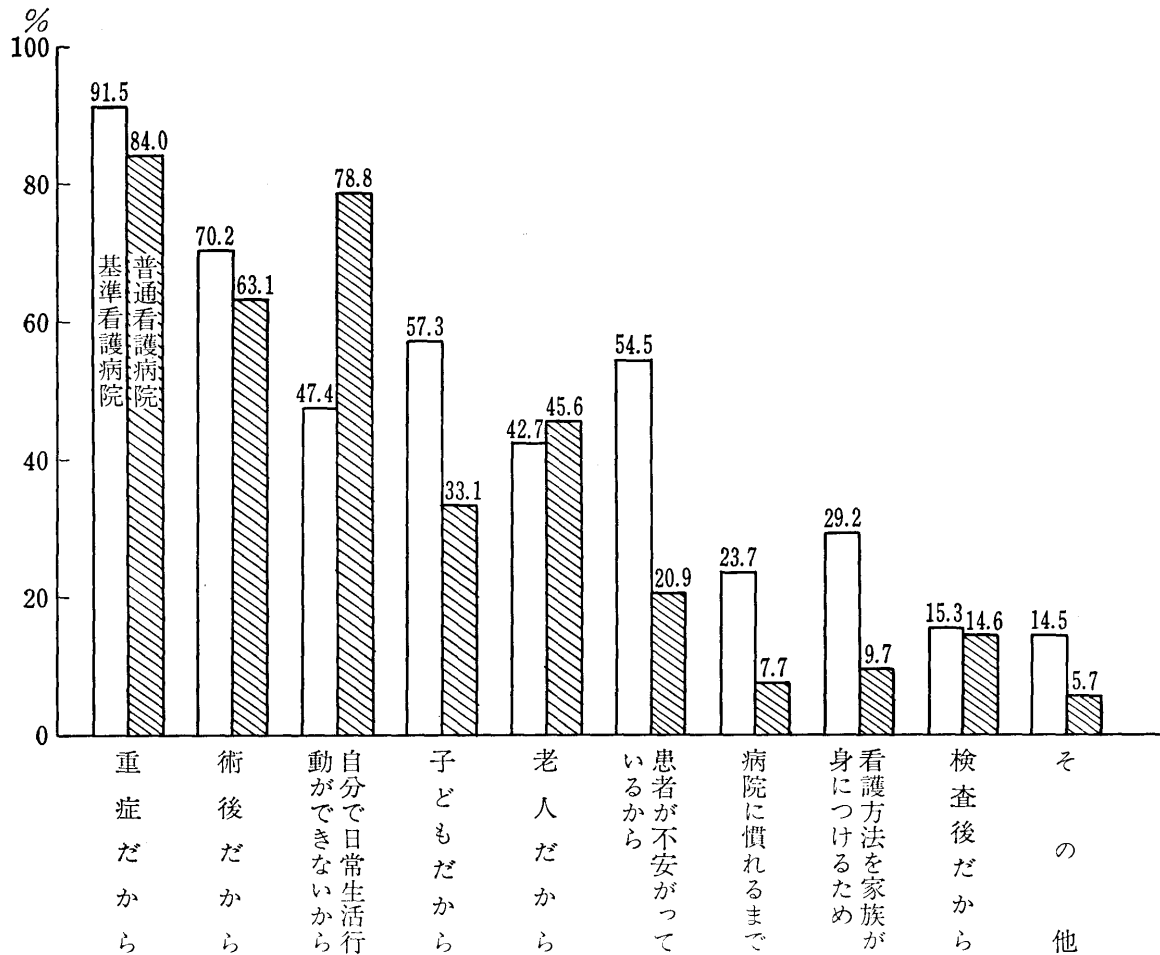
#### 3 どういうときに付添をつけるかについての看護部門の方針はあるか

〈図3〉のように基準看護病院、普通看護病院とも「ケースバイケースによる」が半数近くに上

表12 付添うことを言い出す人〔第1位のみ〕

言い出す人 基準看護の承認状況	患者・家族	病棟婦長	医 師	一般看護婦	総婦長	特にきまっ ていない	無回答	計
基準看護病院	65.5%	18.5	10.1	2.7	0.8	1.8	0.6	100.0
特 2 類	69.0	17.7	9.0	1.7	0.3	1.4	0.9	100.0
特 1 類	65.0	16.2	10.4	5.2	0.6	2.3	0.3	100.0
1 類	59.7	21.6	12.3	1.9	1.9	2.6	—	100.0
2 類	34.2	31.6	15.8	10.5	5.3	—	2.6	100.0
普通看護病院	25.8	27.0	27.7	10.0	4.4	4.2	0.9	100.0

図2 付添をおく病院側の理由（複数回答）



った。本調査では「ケースバイケースによる」は特にはっきりした方針がないものとみなしたが、そうすると特にはっきりした方針のない病院は基準看護病院全体では59.0%、普通看護病院では実に74.9%に及んだ。

他方、何らかの方針があるところをみると類の高いところほど「文書」が多く、類が下がるにつれ「申し合わせ」がふえてくる。

#### 4 付添を要請するとき患者・家族に理由を話すか

基準看護病院の81.8%、普通看護病院の85.5%

が「必ず話している」。「話すべきとは思いが話していない」「話す必要はないので話していない」は皆無であった。「病院側から付添をつけるようにいうことはない」は、基準看護病院では11.7%あるが、普通看護病院はほとんどなく1.7%にすぎない。普通看護病院は前述の付添うことを言い出す人の項でも、病院側から付添を要請する割合が高かった（P11参照）ため、これを反映していると思われる。

#### 5 付添に対して看護部門のしていること

昭和55年付添看護調査〔施設調査〕

図3 どういうときに付添をつけるかについての看護部門の方針はあるか

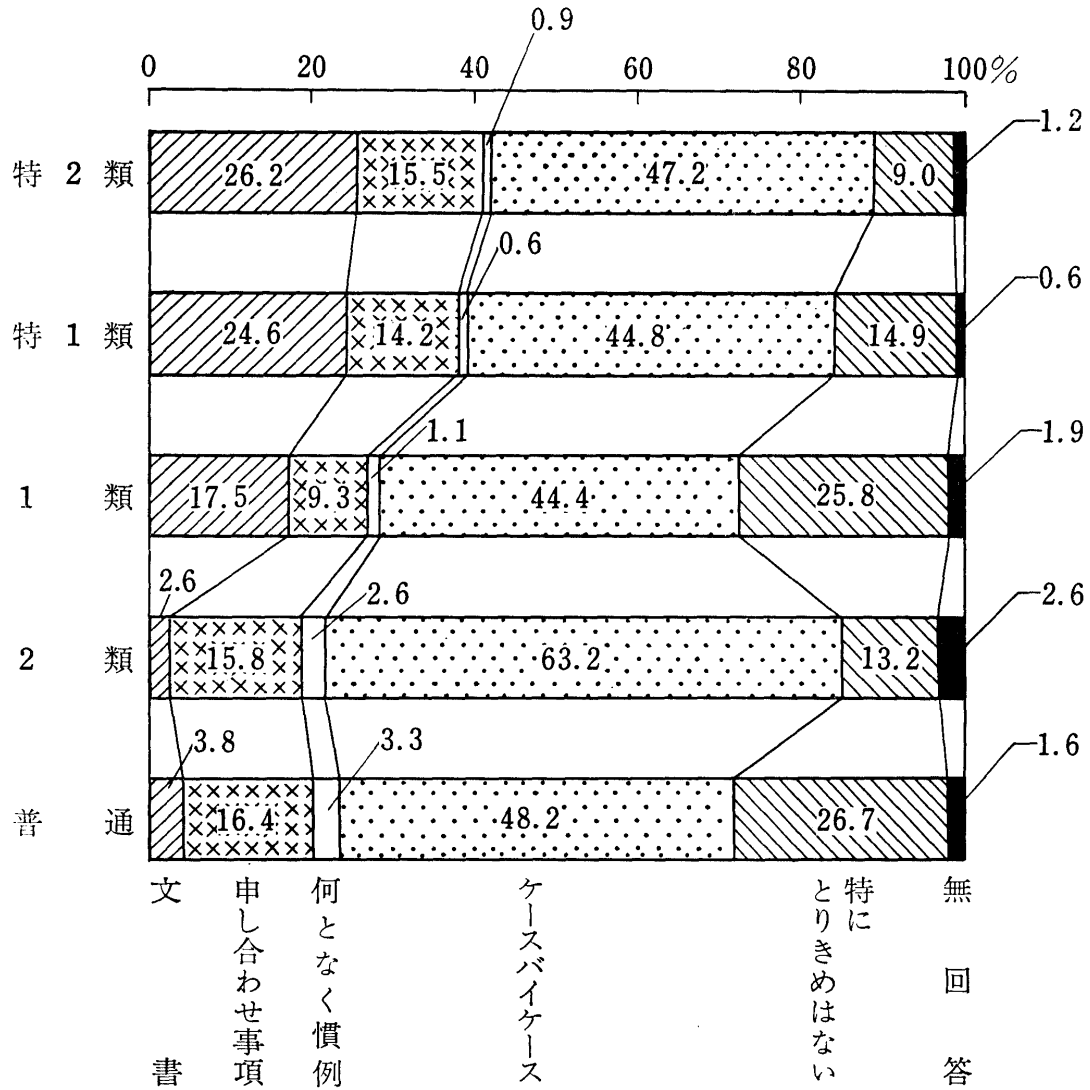
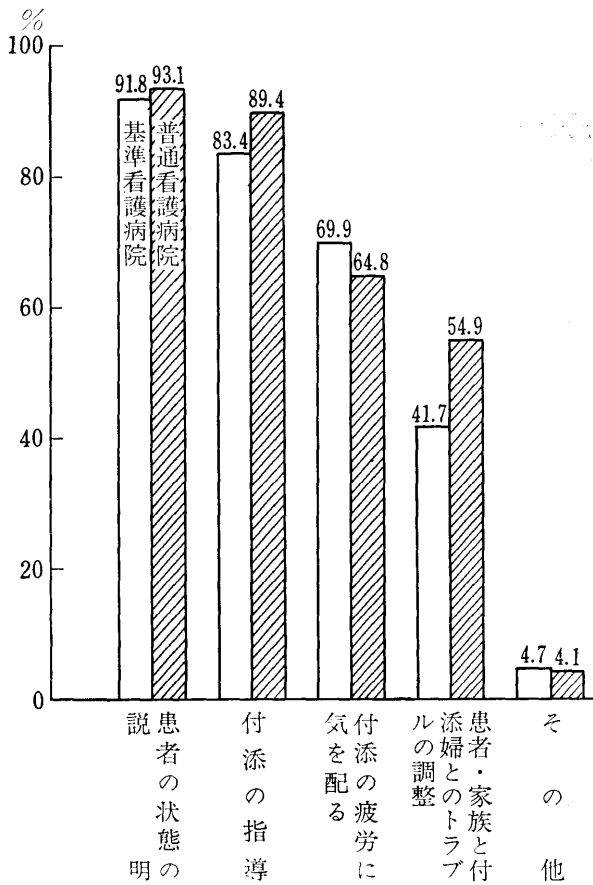


図4 付添に対して看護部門のしていること  
(複数回答)



「患者の状態の説明」、「付添のすることについて指導する」は、基準看護病院、普通看護病院ともほとんどの病院が実施している<図4>。これに比べて「付添の疲労の程度に気を配る」は2/3の病院にすぎない。付添った家族や付添婦の疲労が社会で問題になっていることに照らすと少ない。

## 6 付添が生活するための設備

全般に普通看護病院の方が準備されている率が高い。普通看護病院では付添が認められ、また現実に行く率が高いため、日頃から準備しているということだろう<図5>。

## IV 付添看護についての総婦長の意識

### 1 付添が付くために患者の療養生活上起きている問題

#### 1) 問題の有無

「問題あり」と答えた総婦長は基準看護病院全体では69.0%とかなり多く、また類の高いほどこの割合は増えた。普通看護病院では46.6%であった。普通看護病院の方が少ないのは、普通看護病院では付添が認められているために、問題があってもそれほど問題と思われないためだろう。

問題の内容をみるとどの類も「病棟環境が不潔になる」「付添が患者を甘やかす」が多い<表13>。

また基準看護病院では「看護婦が患者に近づかなくなる」ということを問題にしている総婦長が2割近くいた。

#### 2) 問題の改善意欲

次いで「問題あり」と答えた総婦長に、その問題を改善したいかどうかをたずねた。

<表14>のように「改善にむけてとりくんでいる」「とりくむつもりでいる」と答えた総婦長が多く、全般にかなり意欲的であった。

この中で「改善したいとは思わない」を選んだ総婦長は、その理由をたずねた自由記述の回答からみる限り、壁につき当たって改善意欲を失なっ